

ブラジル地方選挙と地域政治の水平的／垂直的關係

Brazilian Municipal Elections and Horizontal/Vertical Relations in Local Politics

舩方 周一郎

はじめに

2012年10月に各都市の市長と市議員を決めるために実施されたブラジル地方選挙は、2年目に入ったジルマ・ルセフ (Dilma Rousseff) 現労働者党 (PT: Partido dos Trabalhadores) 政権の中間評価という位置づけから、ブラジル政治の行方を占う意味を持っていた。ブラジル中央の政治運営では、政権与党の労働者党が中道政党のブラジル民主運動党 (PMDB: Partido do Movimento Democrático Brasileiro)、中道左派政党のブラジル社会党 (PSB: Partido Socialista Brasileiro)、ブラジル労働党 (PTB: Partido Trabalhista Brasileiro) など複数政党と連合を組み、連邦議会内で議席の過半数を獲得することで安定した政治運営を維持してきた。1980年の政党結成当時、急進左派政党だった労働者党はルーラ (Luis Inácio Lula da Silva) を候補者に擁立し4度の大統領選挙を通じて政権奪取をめざした。この過程で穏健化した労働者党は政権第一党となり、現在の政党イデオロギーは中道左派 (中道) と位置づけられる (Hunter [2011]; 近田 [2008])。一方で中央政治における野党は、緑の党 (PV: Partido Verde) や社会自由党 (PSOL: Partido Socialismo e Liberdade) などの急進左派政党と、ブラジル社会民主党 (PSDB: Partido da Social Democracia Brasileira)、民主党 (DEM: Democratas) ほか中道から右派までの保守政党が存在する (Krause et al., orgs. [2010])⁽¹⁾。

こうしたブラジル政党は政党内規律が弱く、政治家の頻繁な政党くら替えや左右政党間で日和見的な同盟が結ばれるため、政党の左右イデオロギーを明確に区分できないという意見もある (Kingstone and Power, eds. [2008])。とはいえ中央の政党政治は、1995年を境に労働者党陣営と社会民主党陣営の対立を軸に展開してきた。

しかし地方の政党政治は、中央の政党政治ほど単純に説明できない。地方の政治運営では、地方ボスの存在や地方独特の政治背景を前提として (1) 政党間で繰り広げられる水平的な関係と (2) 中央 (União)、州 (Estado)、市 (Município) の首長たちの垂直的な関係に基づき駆け引きが行われる。そしてこの駆け引きが顕著な選挙戦で、他政党との対立／協調関係、大統領・知事・市長など有力政治家との対立／協調関係は、候補者の勝敗を左右する要因とされてきた (Lavareda e Telles, orgs. [2011])。

そこで本稿では、2012年ブラジル地方選挙の動向と結果を概説した後、ブラジル主要都市の選挙戦を事例に取り上げ、中央政治と異なる様相をもつ地域政治がどのように展開されたかを明らかにする。なお本稿ではブラジルの主要都市をリオデジャネイロ市、ベロオリゾンテ市、レシフェ市、サンパウロ市、サルバドール市とする⁽²⁾。主要都市の市長選挙戦を取り上げるのは、他のラテンアメリカ諸国と同様に、地方選挙全体を評価する指

標となるからである。

他方でブラジルでは統一選挙（大統領，知事，国会議員，州議会議員）と地方選挙が1988年以來、2年おきに実施されている。そのため主要政党にとって地方選挙の結果は、2年後の大統領選挙の試金石としても位置づけられてきた⁽³⁾。2012年地方選挙の結果から先に述べると、ルーラ前大統領の人気，ルーラの後継者として政権発足から高い支持率を維持していたルセフ大統領の選挙戦における候補者支援，労働者党の選挙戦略によって、労働者党陣営が勝利を収めた。それゆえに選挙終了直後は2014年大統領選挙において、決選投票なしの第1回投票でルセフ大統領の再選を確実視する見方が大勢を占めていた。しかし2013年6月にブラジル全土で発生した抗議運動を受けて、ルセフ大統領と労働者党政権に対する評価は大幅に低下した。このことで大統領選挙を巡る主要政党と候補者の動向も変化している。これを踏まえて本稿の最後に、来年10月に迫った2014年ブラジル大統領選挙の現在の見通しを示す。

I 2012年地方選挙と二大政党の明暗

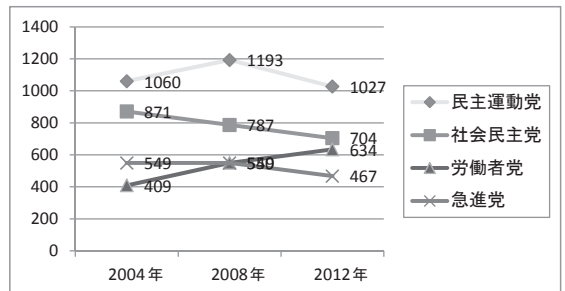
ブラジル地方選挙で対象となるのは、全5568市における市長と市議員のポストである。市長の任期は4年で、1988年ブラジル連邦憲法によれば、大統領と知事とともに1度に限り連続再選が認められる⁽⁴⁾。主要な選挙日程については、立候補者の選挙活動は交付開始後1ヵ月で、立候補の登録が締め切られる。その後、テレビやラジオなどでの選挙運動が投票日の3日前まで実施され、第1回目の投票日（10月の第1日曜日）に、全国各地の投票所において電子投票が実施される。第1回投票で1人の市長候補者が過半数の得票を取れなかった場合には、得票数上位2名の候補者による

決選投票が行われ、同様に選挙活動が実施される。最終的には決選投票（10月の最終日曜日）が行われ、全ての市長が選出される。

今回の地方選挙を政党別市長数（図1）から振り返ってみよう。若干数を減らしたものの、有権者から最も高い評価を得た政党は民主運動党である。政権第一党である労働者党は2003年に政権を奪取してから、ブラジル最大の支持基盤をもつ民主運動党と連携をはかることで、安定した政治運営を続けてきた。しかし、労働者党単独でも市長数を大幅に増やして、社会民主党所属の市長数に迫った背景には、ルーラ、ルセフという有力政治家による労働者党陣営の候補者への支援がある。地方選挙と同時期にルーラ政権期における労働者党議員の集団汚職事件（Mensalão）の最高裁判決が実施されていたことで、労働者党陣営の候補者のイメージは悪化したが、その事実を踏まえても、労働者党の政権運営はこの時点ではほぼ安定していた。また政権発足以来、高い支持率を維持してきたルセフ大統領が支援表明した労働者党陣営の候補者を、有権者も支持する傾向がみられ、選挙戦の大勢は労働者党陣営の勝利に傾いた。

こうした現大統領への評価は、労働者党陣営が今回の選挙戦に勝利した要因として挙げられる。しかし労働者党陣営勝利の立役者は、大統領の

図1 地方選挙における政党別市長数（単位：人）



（出所）Folha de São Paulo 記事をもとに筆者作成。

座を退いた現在でも国民からの絶大な人気を誇るルーラ前大統領だったといえる。ルーラは2010年大統領選挙において文民長（官房長官）の座にいたルセフを自らの後継者として指名して、ルセフを大統領に導いた。今回の選挙戦でも、ルーラは自身のがん治療のために選挙活動への参加が遅れたものの、テレビやラジオでの選挙活動が解禁されると、労働者党の広告塔としてメディアに頻繁に登場した。また候補者の応援のために、労働者党の支持基盤が強い区域の党員支援者の集会に駆け付けて、ブラジル全土で精力的な遊説を行うなど、その存在感を示した。さらに労働者党陣営は潤沢な選挙資金のもとで、党員や支援者を動員してチラシ、ポスター、立て看板、行進、党員集会、街宣車による宣伝、ソーシャルメディアを駆使した広報活動を実施した。選挙戦を通じたルーラの政治手腕や労働者党の熟練した選挙戦術は、多くの選挙区で協調関係を結ぶ候補者の知名度と支持率を伸ばして、候補者が当選する要因として働いた。

これに対して最大野党である社会民主党は、今回の選挙戦で大敗を喫した。社会民主党はサンパウロ市長選挙の敗北に加えて、支持者が多数を占めるはずのサンパウロ州内でも2008年に比べて40以上の市で政権与党の座を失った。こうした結果を受けて社会民主党の名誉党首であるカルドーズ（Fernando Henrique Cardoso）元大統領は「社会民主党には、抜本的な改革が必要だ」と述べている（*Folha de São Paulo*, Outubro 28, 2012）。効果的な選挙戦略の失敗に加え、党内の求心力や政策達成率の低下などから、近年の社会民主党の政治運営に有権者が厳しい評価を下したことがわかる。このように今回の選挙戦では、中央の政党政治においてしのぎを削る労働者党と社会民主党の明暗が分かれる結果となった。

II 主要5都市選挙戦の結果と分析

2012年地方選挙における全26州都の選挙戦のうち、16都市において結果が決選投票まで持ち越された。一方、再選を果たしたベロオリゾンテ市、リオデジャネイロ市など4都市の市長は、いずれも第1回投票で当選を決めた。またサンパウロ市など5都市では、第1回投票で2位だった候補者が、決選投票までの期間に他政党と同盟を組むことで新たな有権者の支持を獲得し、逆転勝利を収めた。なおこうした市長選挙の結果は、選挙最高裁判所（TSE: Tribunal Superior Eleitoral）ホームページのデータから、(1) 現職市長の再選／後継候補者の当選、(2) 対立候補者の当選（知事の支援）、(3) 対立候補者の当選（州知事と対立）という3つの傾向に大別できる⁽⁵⁾。この分類に従い、主要5都市の政治的背景とともに、(1) 政党間の水平的関係、(2) 中央、州、市の首長間の垂直的關係を説明していこう。

1 現職市長の再選／後継候補者の当選

第1の傾向が、現職市長の再選／後継候補者が当選した事例である。この事例に該当する6選挙区で、現職市長が有権者から高い評価を得ていた（表1）⁽⁶⁾。典型例はリオデジャネイロ市とベロオリゾンテ市である。

(1) リオデジャネイロ市の事例

リオデジャネイロ市（リオデジャネイロ州）の市長選挙は、現職で民主運動党所属のパエス（Eduardo Paes）市長が、64.60%という圧倒的な得票率を得て、第1回投票で再選を決めた。リオデジャネイロ市では1993年以降、マイア（Cesar Maia）前市長が指導する民主党が長期間にわたり市政運営を掌握した。しかし民主党の市政運

表 1 第 1 の傾向：現職市長の再選／後継候補者の当選

州都（州）	州政府		市政府		知事との関係
	政党	評価	政党	評価	
リオブランコ（アクレ）	労働者党	72%	労働者党	67%	協調
リオデジャネイロ（リオデジャネイロ）	民主運動党	40%	民主運動党	57%	協調
ポルトアレグレ（リオグランデドスル）	労働者党	44%	民主労働党	56%	対立
ベロオリゾンテ（ミナスジェライス）	社会民主党	60%	社会党	53%	協調
ゴイアニア（ゴイアス）	社会民主党	25%	労働者党	41% ^(注)	対立
マセイオ（アラゴアス）	社会民主党	26%	急進党	50%	協調

（出所）TSE 資料をもとに筆者作成。

（注）ただし、ゴイアニア市長は有権者から低評価だったが、再選した。

営に対する評価が二分すると、2008年地方選挙ではリオデジャネイロ州知事カブラル（Sergio Cabral）が、社会民主党所属でカブラル政権の下で観光局長を務めていたパエスを民主運動党に引き入れ、市長候補者として擁立した。対するマイア前市長は社会民主党とともに緑の党所属の候補者を擁立したが、最終的にパエスが勝利を収めていた。この経緯を踏まえ、今回の選挙戦でパエスは、政権与党の利を生かし市内20以上の政党と大規模連合を結成して、議会内の議席数をほぼ掌握した。このことで各政党に配分される選挙政見放送の時間を増やし、選挙戦を優位に進めた。この連立強化に加え、パエスは政権運営の遂行に州知事カブラルとの連携を重視し、中央の政治運営において民主運動党と強固な連立政権を組む労働者党のルーラやルセフとも友好関係を維持した。この結果、今回の勝利につながったとされる。このようにパエスは政党間の水平的／垂直的關係で確実な協力関係を結び、再選は盤石の状態だった。

（2）ベロオリゾンテ市の事例

現職市長が再選した都市の例として、他にベロオリゾンテ市（ミナスジェライス州）の市長選挙

が挙げられる。サンパウロ市、リオデジャネイロ市に続くブラジル第3の都市であるベロオリゾンテ市は、1993年から2012年6月末日まで、労働者党が与党側に就くことで労働者党の安定した政権運営を実施してきた。ベロオリゾンテ市での長期労働者党政権の維持は、労働者党と社会党が交互に市長を選出してきたことで成立していた。さらにベロオリゾンテ市では、もともとと政党間の対立が少ないことに加えて、中央で対立関係にある労働者党と社会民主党が、州では双方の政党支部間で非公式的な同盟が結ばれていた（Lavareda e Telles., orgs. [2011]）。

しかし今回の選挙戦では、社会民主党連邦上院議員で2013年に同党の党首に選出されたアエシオ（Aécio Neves）が、社会党への支援を口実に、労働者党と社会民主党との関係に揺さぶりをかけたことで、ベロオリゾンテ市での政治運営に変化が見られた。社会党が社会民主党の支援に傾いたことを知った労働者党は、社会党にベロオリゾンテ市における同盟破棄を宣言し、労働者党は新たな候補を擁立して選挙戦を迎えた。こうして労働者党対社会党（プラス社会民主党）の構図となった選挙戦は、社会民主党所属のミナスジェラ

イス州知事の支援と、現職市長として有権者から高い支持を得ていたラセルダ (Marcio Lacerda) が、19もの政党との連合を結成して安定した得票率を獲得し再選を果たした (Folha de São Paulo, Outubro 15, 2012)。なおペロオリゾンテ市長選挙にはルセフ大統領がサンパウロ市以外では唯一候補者の応援演説に駆け付けたが大勢は変わらず、労働者党はペロオリゾンテ市で20年間継続していた与党の座を失った。

2 対立候補者の当選 (州知事の支援)

第2の傾向は、現職市長に対立する候補者が当選した事例である。ただしこの事例に該当する5選挙区では、現職市長に対する有権者の評価が低く、対立候補者は現市政に反対し、州知事が対立候補者を支援した (表2)。この典型例はレシフェ市である。

(1) レシフェ市の事例

レシフェ市 (ペルナンブコ州) は、ルーラ前大統領の出身地として労働者党の強固な地盤とされてきた。今回の選挙戦でも、労働者党所属現職市長の任期満了に伴い、当初は市長の後継者として指名された労働者党連邦上院議員コスタ

(Humberto Costa) がリードしていた。しかしペルナンブコ州知事で、2014年の大統領選挙への出馬が現実視される社会党党首カンポス (Eduardo Campos) が労働者党と同盟破棄を宣言したことから、選挙戦の途中で社会党はジュリオ (Geraldo Júlio) を候補者として擁立し、その後の選挙戦に臨んだ。

選挙戦の序盤こそ、知名度と支持率が低かったジュリオだったが、レシフェ市におけるカンポス知事の人気にあやかった社会党の選挙戦略が功を奏し、次第に支持率を上げた。一方、選挙戦における対立候補の批判活動により現職市長に対する有権者の不満が拡大すると、コスタの支持率も急激に低下した。その結果、コスタの支持率は終盤で社会民主党所属の候補にも抜かれ、第1回投票で敗北した。最終的には、決選投票の前に15政党との連合を結成したジュリオの勝利となった。レシフェ市の事例では、有権者が労働者党の市政運営に強い不満をもっていたため、ルーラヤルセフの選挙支援は他の都市の選挙戦で確認されたような労働者党陣営の候補者の支持率上昇に十分な効果を上げなかった⁽⁷⁾。むしろレシフェ市を含むペルナンブコ州内ではカンポス州知事が強力な影響力を発揮しており、州知事の支援がジュ

表2 第2の傾向：対立候補者の当選 (市政府に反対・州知事の支援)

州都 (州)	州政府		市政府	
	政党	評価	政党	評価
フォルタレーザ (セアラ)	民主社会党	49%	労働者党	28%
フロリアノポリス (サンタカタリーナ)	社会民主党	40%	民主運動党	50% ^(注)
ベレン (パラ)	社会民主党	46%	民主労働党	20%
レシフェ (ペルナンブコ)	社会党	68%	労働者党	17%
ボアビスタ (ロライマ)	社会民主党	43%	労働者党	10%

(出所) TSE 資料をもとに筆者作成。

(注) ただし、フロリアノポリス市長は高評価だったが、知事の支援する候補者が当選した。

リオの当選を導く要因となった。

3 対立候補者の当選（州知事と対立）

第3の傾向も、現職市長と対立する候補者が当選した事例である。この事例に該当する9選挙区は、現職に対する有権者の評価が低く、対立候補者が現市政へ反対した点は第2の傾向と同じである。しかし対立候補者は州知事も対立した（表3）。典型例は、サンパウロ市とサルバドール市である。

(1) サンパウロ市の事例

サンパウロ市（サンパウロ州）の市長選挙は、現在でこそ社会民主党と労働者党による政党政治の舞台だが、かつては地方ボスの権力が強く反映された。サンパウロの地方ボスは、市内産業分野を中心に権益を握ることで、主に中間層の有権者の支持を政党に集約する力を発揮した。サンパウロ市長と州知事を務めたマルーフイ（Paulo Maluf）も地方ボスとして君臨したが、軍政期の軍部との関係や汚職が明るみになり、メディアと市民による批判や逮捕をへて権威は失墜した。

一方で1988年と2000年の選挙においては、労働者党所属の市長が誕生した。しかしサンパウロの保守層を中心とする市民は、当時の労働者党による急進的な政権運営を厳しく批判した。そうした経緯と2004年と2008年の選挙敗北を理由に、労働者党は新たにアダジ（Fernando Haddad）を候補者に擁立した。さらに議会内の議席数拡大を狙う労働者党は、マルーフイが党首を務める右派政党の急進党と同盟を結び、左右イデオロギーを超えた政党連合を結成した。

対する社会民主党陣営は、現職サンパウロ州知事アルキミン（Geraldo Alckimin）と、現職市長で民主社会党の党首カサビ（Gilberto Kassab）から支持を得るセーハ（José Serra）を候補者として擁立した。当初は過去に2度大統領選に出馬するなど知名度が高いことや、現職市長と州知事の支持を得ていたことで、セーハが優位とみられていた。ただし交通機関の混雑と未整備、輸送経路の渋滞、治安の悪化、医療や教育の質の低さ、公共衛生の欠如などにより、現職カサビ市長の政治運営に対する有権者の評価は、2008年を境に下降していた。それでもセーハは2006年の州知事

表3 第3の傾向：対立候補者の当選（市政府に反対・州知事と対立）

州都（州）	州政府		市政府	
	政党	評価	政党	評価
ポルトヴェーリョ（ロンドニア）	民主運動党	26%	労働者党	31%
マナウス（アマゾニア）	民主社会党	69%	民主労働党	24%
ヴィトリア（エスピリトサントス）	社会党	34%	労働者党	23%
アラカジュ（セルジッペ）	労働者党	24%	共産党	22%
サンパウロ（サンパウロ）	社会民主党	46%	民主社会党	20%
パルマス（トカンチンス）	社会民主党	32%	労働者党	19%
クイアバ（マトグロッソ）	民主運動党	29%	労働党	9%
サルバドール（バイーア）	労働者党	18%	急進党	5%
ナタル（リオグランデノルテ）	民主運動党	8%	緑の党	1%

（出所）TSE資料をもとに筆者作成。

選挙に出馬し市長を辞職した際、カサビを後継者として市長に任命し、自身が州知事に就任した後はカサビ市長とサンパウロの州と市の政権運営を協力しあったことから、カサビ政権の擁護を有権者に訴えた⁽⁸⁾。

他方で労働者党陣営は、セーハからカサビに継承された現体制と、連携するアルキミンの政治運営を有権者が低く評価していたことから、アルキミン、カサビ、セーハが連携する社会民主党陣営を激しく非難した。ただし汚職問題から労働者党に対する有権者の不信も高まっており、第1回投票までの選挙戦でブラジル共和党 (PRB: Partido Republicano Brasileiro) の躍進を生んだ。しかし共和党とユニバーサル教会 (Universal Church) の関係をメディアから執ように糾弾されると投票日間近で支持率は急落し、結局はセーハとアダジの決選投票となった。

第1回投票では、セーハとアダジの得票率は僅差だったため、決選投票までの選挙戦の行方は、どちらの政党が共和党と民主運動党の候補者の支持を取り付けるかに関心が集まった。この中でアダジ陣営は、中央の政治運営で連携を結ぶ共和党と民主運動党との同盟に乗り出した。しかし共和党は2つの政党に中立的立場を表明して、共和党の支援者は各自で候補者を選ぶことになった。一方で、労働者党との複数回の政策協議に臨んだ民主運動党は、自らの提案を労働者党の選挙公約に組み込むことを条件に、労働者党と同盟を結ぶことに応じた。その結果、共和党と民主運動党を支援した有権者の多くが、セーハではなくアダジ支持に流れ、決選投票においてアダジがセーハを破り、新市長に選ばれた。中央で連立を組む民主運動党と市でも協力関係を結べたことは、決選投票でアダジが勝利する最後の一押しとなった。

(2) サルバドール市の事例

サルバドール市 (バイーア州) の市長選挙では決選投票の末、民主党のアシム・ネット (ACM NET) が、大統領と労働者党所属の州知事の支援を受けた候補者を破り、新市長となった。アシム・ネットは、サルバドール市長と3度のバイーア州知事、民主党の前身である自由戦線党の党首を務め、バイーア州の地方ボスとして権力を振るったアシム (Antônio Carlos Magalhães) の孫にあたる。2007年のアシム死去の後、アシム・ネットはバイーア州で巨大な独占的家族経営を行うマガリャエス一族が築いた支持基盤を継承することで、サルバドール市内での支持率を着実に伸ばした。特に今回の地方選挙の前後では、バイーア州内における治安の悪化などにより、労働者党の政治運営に有権者の不満が高まっていたことから、保守政党である民主党が有権者の不満の受け皿となった。しかしアシムは強大な権力を振る一方で多くの汚職・不正に手を染めたため、対立候補者からは、世襲議員のアシム・ネットが暴力の行使やばら撒きにより、バイーア州におけるクライエントリズムの中核を形成したカルロス主義 (Carlismo) に回帰するのではないかという批判も受けた。

労働者党派と反労働者党派の対立のもとで迎えた第1回投票では、アシム・ネット (民主党) と対立候補者 (労働者党) の得票率が、40.17%対39.73%という接戦となった。しかしその後、決選投票を前に民主運動党が民主党支持に動いたことで、アシム・ネットの勝利が決定づけられた。これは労働者党と民主運動党が強固な同盟を維持する中央の政治運営とは異なり、民主運動党バイーア州支部が、有権者からの評価が低い労働者党所属の州知事への不支持を表明したためである。民主運動党のアシム・ネット支持は、民主運動党の州代表が「バイーア州の問題は、バイーア

州で解決する必要がある」と述べていることから、民主運動党州支部による独自の判断だったことがわかる。ただし、この民主運動党が民主党支援に動いた背景には、2014年の州知事選挙において民主運動党が候補者を選出した場合には、民主党がその候補者を支持する取引があったとされる（*Folha de São Paulo*, Outubro 11, 2012）。

4 州市長選挙の傾向

州市長選挙の結果を3つの傾向から分類して、典型事例となったブラジル主要5都市の選挙戦を紹介した。これらの分類により現職市長の市政運営を有権者が高評価／低評価する判断が、有権者が市長を選ぶ1つの重要な指標となることが確認できた。

これを前提として、大統領・州知事・現職市長など有力政治家の支援の有無は、市長を選出する場合に有権者の投票行動を規定する一要因となった。例えばリオデジャネイロ市、ペロオリゾンテ市、レシフェ市の事例のように、知名度や人気を備えた州知事などの有力政治家の支援は、候補者の支持率の増加を促進した。これは有力政治家と同じ政党（あるいは連立政党）に所属することで、政党や支援者からの支持を獲得できたためだと考えられる。

ただしレシフェ市、サンパウロ市、サルバドル市の事例のように、地域独特の政治背景や、その地域で特定の有力政治家や政党の評価が低い場合には、それらとの連携が逆に候補者の支持率の低下を助長する傾向も確認された。さらにサンパウロ市やサルバドル市の事例からは、州知事や現職市長の評価が低い場合に、州知事や市長に敵意を表明することで州知事と市長との連携に反対する有権者の票が対立候補者に流れる傾向が示された。地方選挙を巡る地域政治の水平的／垂直的

關係は、どの事例でも市長当選の決定要因になることは断定できないが、これらの関係をみることで中央の政党政治にはない多様な政治力学をさらに浮き彫りにできる可能性を秘めている。

むすび：2014年大統領選挙にむけた現在の見通し

2013年6月、市内の交通機関の料金値上げに反対するサンパウロ市での抗議運動は、汚職撲滅、教育や医療の充実、政治制度の改革など、民主主義の質の改善を訴える全国規模の抗議運動に発展した。6月の抗議運動の影響を受けて、2013年3月時点で58%あったルセフ大統領の支持率は、7月に30%まで急落した。9月時点で38%までやや持ち直したが、安泰だったルセフ労働者党政権の政治運営に見直しが迫られている（IBOPE, Setembro 26, 2013）。

一方で抗議運動が追い風となったのは、9月時点で支持率が2位（16%）だったマリーナ（Marina Silva）である。労働者党を離脱して緑の党党首となったマリーナは、2010年大統領選挙に出馬しルセフ（労働者党）、セーラ（社会民主党）に次ぐ票（19%）を獲得した。そのマリーナは、2014年大統領選挙に新党「持続可能なネットワーク」（REDE: Rede Sustentabilidade）から出馬を目指していた。持続可能なネットワークは、広範囲の社会運動と良好な関係を築き、汚職撲滅や環境保護を訴える新しい種類の政党として、若者層を中心に支持を得ている。またマリーナ個人の人気と、既存政党に比べ批判される点が少ないことなどから、ルセフ大統領を支持してきた有権者が抗議運動の発生を前後して持続可能なネットワークの支持に傾いた。しかし有効署名数が期日までに規定に満たなかったため、持続可能なネットワークは選挙最高裁判所から全国政党としての承認を却下

された。この結果を受け、マリーナは大統領選挙への出馬も視野に入れて社会党に入党したが、大統領選挙への出馬は危ぶまれている。

支持率（11%）3位のアエシオ（社会民主党）は、早い段階から出馬の意向を示していた。しかし党内のサンパウロ出身議員派閥からは、ミナスジェライス出身議員派閥のアエシオではなく、サンパウロ出身のセーハを再び大統領候補として擁立する動きが持ち上がり、党内の調整が難航した。党内協議の末、アエシオの大統領選出馬で固まったものの、社会民主党の政治運営能力の低下が指摘される中で、党内の団結は不可欠である。

最後に支持率（4%）で4位につけるのが、カンポス（社会党）である。社会党党首カンポスは中央政治で労働者党と連立を維持しながらも、地方選挙においてペロオリゾンテ市やレシフェ市などで労働者党との同盟破棄を指揮して、労働者党の影響下でない社会党市長を誕生させた。北東部に支持基盤をもつカンポスだが、全国規模では十分な支持を確保できていない。そこでカンポスは社会民主党と相互の選挙活動を尊重することで合意した。労働者党との対立を明確に示しつつ、アエシオが決選投票に残った場合に社会民主党と同盟を結ぶ狙いがあると思われる。

このように、労働者党政権の評価は以前に比べ低下したが、対抗馬の主要政党と候補者もおのおの課題を抱えている。また代表制民主主義に対する国民の不信と不満などから、どの候補者も支持しない有権者の割合が高いことも、逆に大統領選挙戦でのルセフ優位の状況を作り出している⁽⁹⁾。以上の見通しから、2012年地方選挙に勝利した労働者党が2014年大統領選挙でも勝利し、ルセフ大統領が再選を果たすシナリオが、現時点では最も有力である。しかし6月の抗議運動をきっかけにルセフ大統領の支持率が急落したように、有

権者の候補者への評価は一時の出来事により変わりやすく、予想は覆される可能性がある。したがって、残り一年を切った大統領選挙の動向に引き続き注視が必要である。（2013年10月16日脱稿）

注

- (1) 本稿でいう保守 (Conservative) とは主に①小さい政府／経済的自由主義（規制緩和、自由化）、②域内統制、③伝統重視／公共の大義を重視する政治指向とする。
- (2) リオデジャネイロ市（リオデジャネイロ州）、ペロオリゾンテ市（ミナスジェライス州）、サンパウロ市（サンパウロ州）はブラジル南東部に位置し、レシフェ市（ペルナンブコ州）とサルバドール市（バイア州）は、ブラジル北東部に位置する州都である。
- (3) Lavareda e Telles, orgs. [2011] は過去 20 年間の地方選挙において、ブラジル主要 100 都市での社会民主党または労働者党に所属する候補者の市長当選者数を調べた。すると、その勝敗がそのまま 2 年後の大統領選挙における両政党間の勝敗結果と一致したことを明らかにした。地方選挙の勝敗は 2 年後の大統領選挙の結果を直接決定づけるものではないが、これらの結果から大統領選挙 2 年前時点での大統領と与党に対する有権者の評価が確認できる。
- (4) ブラジルにおける再選権は、1997 年の憲法修正第 16 号を通じて導入された。大統領、州と連邦直轄地の知事、市長は、1 回に限り連続再選が認められる。
- (5) ただしクリチバ市（パラナ州）、カンボグランデ市（マトグロッソドスル州）、ジョアンベッソア市（パライバ州）、マカパ市（アマパ州）、サンルイス市（マラニオン州）、テレジーナ市（ピアウイ州）を除く。
- (6) 本稿では有権者の評価を示す基準として 50% 以上を高評価、50% 以下を低評価と設定する。
- (7) 低所得者層が多いブラジル北東部では、労働者党政権が条件付現金給付 (Bolsa Família) など社会政策を重点的に実施してきたことから、労働者党は北東部に強い基盤をもつとされてきた。しかし今回の選挙では北東部で労働者党陣営が苦戦した

ことから、一部では「北東部の労働者党離れ」が指摘された。

- (8) ただしセーハは2010年大統領選挙出馬のために、サンパウロ州知事も任期途中で辞職した。セーハの権力志向は多くの市民から批判されている。
- (9) 2013年9月26日付けのIBOPE（ブラジル世論統計院）の調査によれば、有権者の31%が「該当者なし」（うち白票・無効票15%、無回答16%）と答えている。

参考文献

- 近田亮平 [2008] 「ブラジルのルーラ労働者党政権：経験と交渉調整型政治に基づく穏健化」（遅野井茂雄・宇佐見耕一編『21世紀ラテンアメリカの左派政権：虚像と実像』アジア経済研究所，アジ研選書 No.14, 207-247 ページ）。
- Hunter, Wendy [2010] *The Transformation of the Workers' Party in Brazil, 1989-2009*, New York: Cambridge University Press.
- Krause, Silvana, Humberto Dantas e Luis Felipe Miguel, orgs. [2010] *Coalições partidárias na nova Democracia brasileira: perfis e tendências*, Rio de Janeiro: Konrad-Adenauer-Stiftung e São Paulo: Editora UNESP.
- Kingstone, Peter R. and Timothy J. Power, eds. [2008] *Democratic Brazil Revisited*. Pittsburg: University of Pittsburg Press.
- Lavareda, Antonio e Helcimara Telles, orgs. [2011] *Como o eleitor escolhe seu prefeito: Campanha e voto nas eleições municipais*. Rio de Janeiro: Editora FGV.
- (ますかた・しゅういちろう／上智大学大学院博士後期課程)